

わいわい ニュース



医療生協さいたま 安松柳瀬支部

2024年 10月発行

連絡先 運営委員 荻野 2944-5783 小畑 2944-8722 深澤 2995-4332

11月3日(日) (10:00~14:00) 健康祭り開催



今年は 東所沢駅から 送迎バスを運行

1964年の統計開始以降、作夏と並んで平均気温が最も高かった今年の夏でした。皆さんどのように暑さを乗り切られたでしょうか。体調不良になられた方もおられる事と思います。どうぞお身体を大事になさって下さい。

昨年引き続き「健康祭り」を、西協同病院でおこないます。今年は東所沢駅から送迎バスを運行します。去年は1000人の方々に参加されました。

楽しいひと時を過ごし、夏の疲れをいやして下さい。

ステージでは民族舞踊、金管アンサンブル、歌声ひろば、ギター&ドラム演奏等々、病院による健康チェック、各支部のバザーなど焼きそば等の出店もあります。協力券の抽選会等盛り沢山の催しがあり、子どもたちの医者・看護師の体験広場は、去年も好評で今年も行います。

協力券は200円です。運営委員までご連絡下さい。

バス運行表 (11月3日)

西協同病院発	東所沢発	西協同着
9:00	9:30	9:50
10:00	10:30	10:50
11:00	11:30	11:50
12:00	12:30	12:50
13:00	13:30	13:50
14:00	14:30	14:50

バスは埼玉西協同病院又は老人保健施設さんどめと書かれたバスにご乗車下さい。ロータリの新倉建設の前にいます。帰りはルート内でしたら希望の場所で降りられます。運転手さんにお声をかけてください。

医師不足

全国ワースト1位の
埼玉県！！

「けんこうと平和」8月号
＜医師を増やして地域医療を守ろう＞の記事。

人口10万人あたりの医師数
埼玉は全国47位。最下位

全国的にも深刻です。

埼玉西協同病院でも不足しており、ドクター1人確保するのに高額な費用が発生します。国や県は、もっと医師の育成に取り組み、国民の命を守る事に力を入れてほしい。

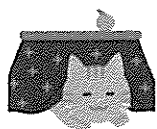
裏面も ご覧ください～い・

今回の投稿は、「思い出探しの家族旅行」です。

こんな老後の楽しみ方もあったのですね。

子どもたちは一緒に来てくれないと思う

けど、思い出の田舎巡りも良いかなあ～。



思い出探しの 家族旅行

下安松 牧 裕子（84歳）

結婚して3年目（1964年4月）に2歳の長女と一緒に夫の赴任地静岡に引越しました。私は初めての地、夫は旧制高校が静岡であったため母校への赴任でした。静岡での17年間は、私たち家族にとって忘れられない思い出の静岡でした。静岡で長男、次男を出産、私の保育人生のスタートでもありました。

子どもたちから、お父さんとの思い出探しに静岡に行こうと提案があって、4月に60歳の長女と50代の息子2人の4人と夫の写真も一緒に行ってきました。

最初に、家族で行った丁子屋のとろろ汁で昼食、おやつは安倍川餅の関部屋により、中学校、小学校、夏のお祭りで行った洞慶院、保育園、保育園の帰りに寄った桔梗屋のソフトクリームも食べたい、私たちが住んでいた家、母の保育園、遠足で行った登呂遺跡等々訪ねたいところがいっぱいありました。

まずは中学校へ、子どもたちの感想は「あまりかわってないな」とあっさりしていました。中学校も、小学校も家の近くでしたが、田んぼの中に学校があったような田舎の風景はどこにも見当たらず、びっしり住宅が並んでいました。住んでいた家は改築されていましたが庭は残っていました。あの頃は家の周りも田んぼばかりで、夏は蛍が飛びカエルの鳴き声のするようなところでした。家の前の中央マートは私の帰りが遅いときには、とんかつ、コロッケ、サラダなど届けていただいた店もなくなっていました。

車を降りて歩きながら「ここには何があったよね」と懐かしく歩いていると長男が突然近くの床屋に入り出てきません。なんと小学校、中学校の友人が父親の跡を継ぎ床屋さんになっていました。住んでいた家の前で話をしていたところ隣のEさんが「あら、牧さんかしら」と出てきてくれました。40年ぶりの再会でした。「牧さんとこの洗濯物はいつも取り込んでいたのよ」「時々掃除もしたわ」隣のEさんに助けていただいたことを思い出し胸が熱くなりました。

Eさんと話をしていると自転車で通りがかった方が「牧君？」と声をかけられました。次男の友達のお母さんでした。小学校は家から見えていたのに今は家が建っていて見えませんでした。3人の子どもが一番懐かしがっていたのは小学校でした。長女が2年生の時に、新築したばかりの4階建ての小学校です。3人は校庭を歩きあそこが給食室、体育館などと言って動こうとしません。二宮金次郎も同じ場所にいました。小学校の近くにある小高い山の洞慶院は大きな杉木立の中を歩き、ここで沢蟹を取った、流しそうめん食べた、縁日でりんご飴食べた等、今まで忘れていたことが鮮明にうかんできました。通っていたキリスト教の保育園はコンクリートの園舎になっていました。子どもが通っていたころは木造の小さな保育園でした。

夜、ホテルの近くの居酒屋で夫の写真を囲み思い出話は尽きませんでした。共働きの忙しい父と母、親の思いなど構わず好きなことに夢中な子どもたちでしたが、地域のかたがたの協力なしにははぐくむことのできない17年間でした。既に東京に赴任していた夫と大学生の長女は官舎にいて私と息子2人で静岡に1年暮らしていましたが、1981年に長男高1、次男中1の8月所沢で家族5人の生活が始まりました。